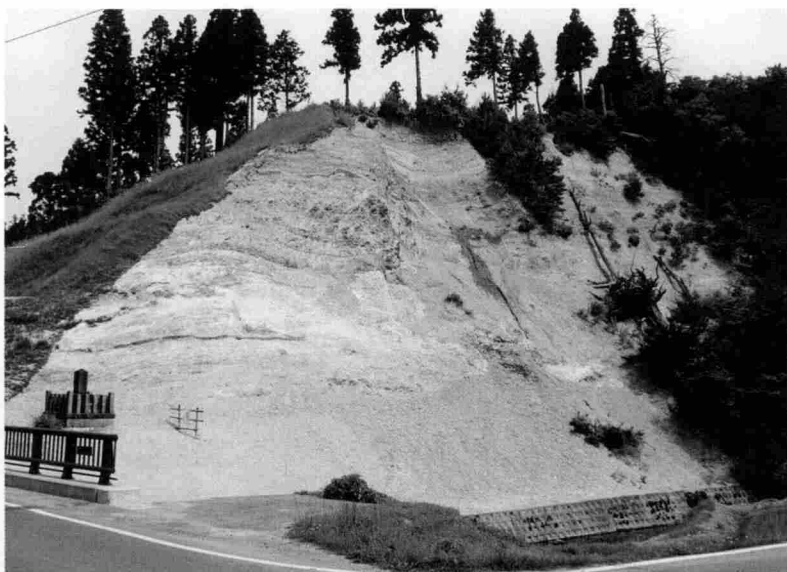


2 笹神丘陵コース

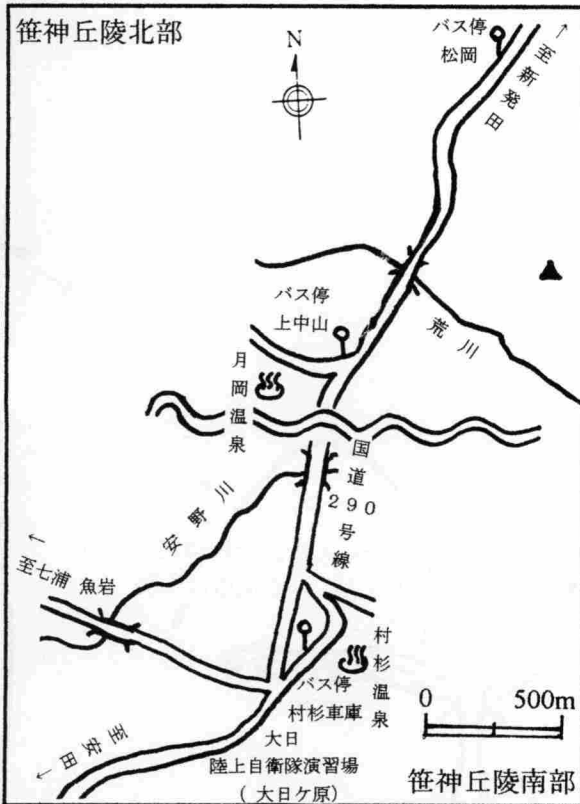


魚岩の露頭



大日の巨礫の露頭

1. 案内図と交通機関



・松岡駐車場裏（笹神丘陵北部）までは、新発田駅から月岡温泉行きのバスに乗り、松岡で下車、徒歩数分。

・大日の露頭と魚岩（笹神丘陵南部）までは、新潟市の万代バスセンターから村杉行きのバスに乗り、終点の村杉車庫で下車し、徒歩で約10分。

・貸切バスの場合は、新々バイパスを競馬場インターにおいて豊栄駅に進みます。豊栄駅から約8km直進し、国道460号線に出ます。交差点中之通を右折し、約5kmで国道290号線に着きます。左折し約2kmで松岡、右折し約10kmで大日に着きます。新潟駅を起点とする道のりで約35km、時間で約50分です。

2. コース周辺の見学地等

笹神村郷土資料館（見学料無料）が、コースの途中にあります。現地で発掘された縄文式土器などが展示されています。

3. コースの全長と観察等に要する時間

大日・魚岩と松岡駐車場裏は距離が離れているため、3カ所とも見学すると15km弱です。観察に要する時間は、それぞれ30分位ですので、移動時間も入れると2時間ほどになります。

4. トイレの位置

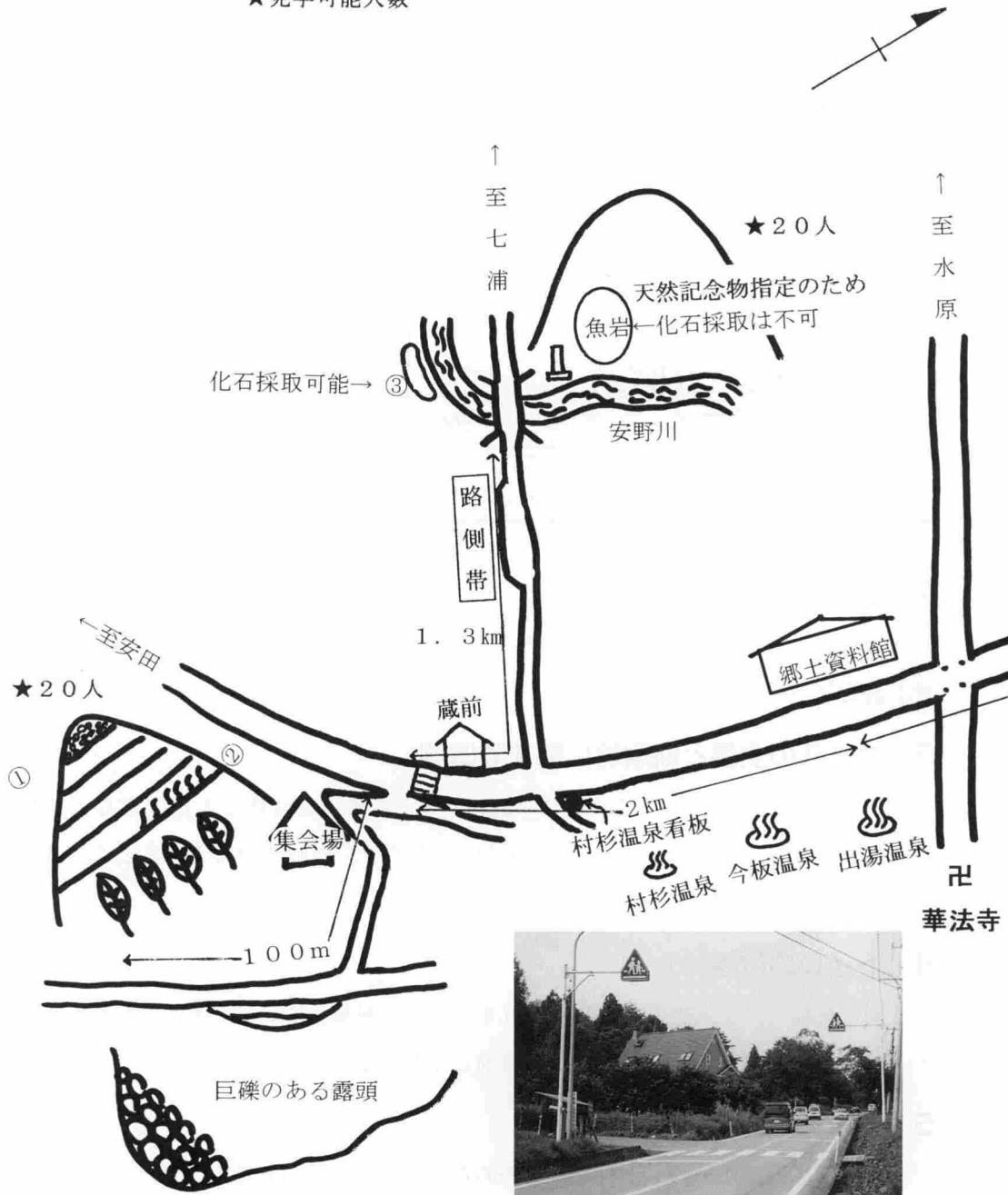
松岡駐車場に、1人用のトイレがあります。笹神村郷土資料館にも少人数で利用できるトイレがあります。利用する場合は、事前に了解を取ってください。

5. 駐車場

松岡駐車場に貸切バスを4台くらい止められるところがあります。魚岩前に貸切バスを2～3台くらい止められる路側帯があります。

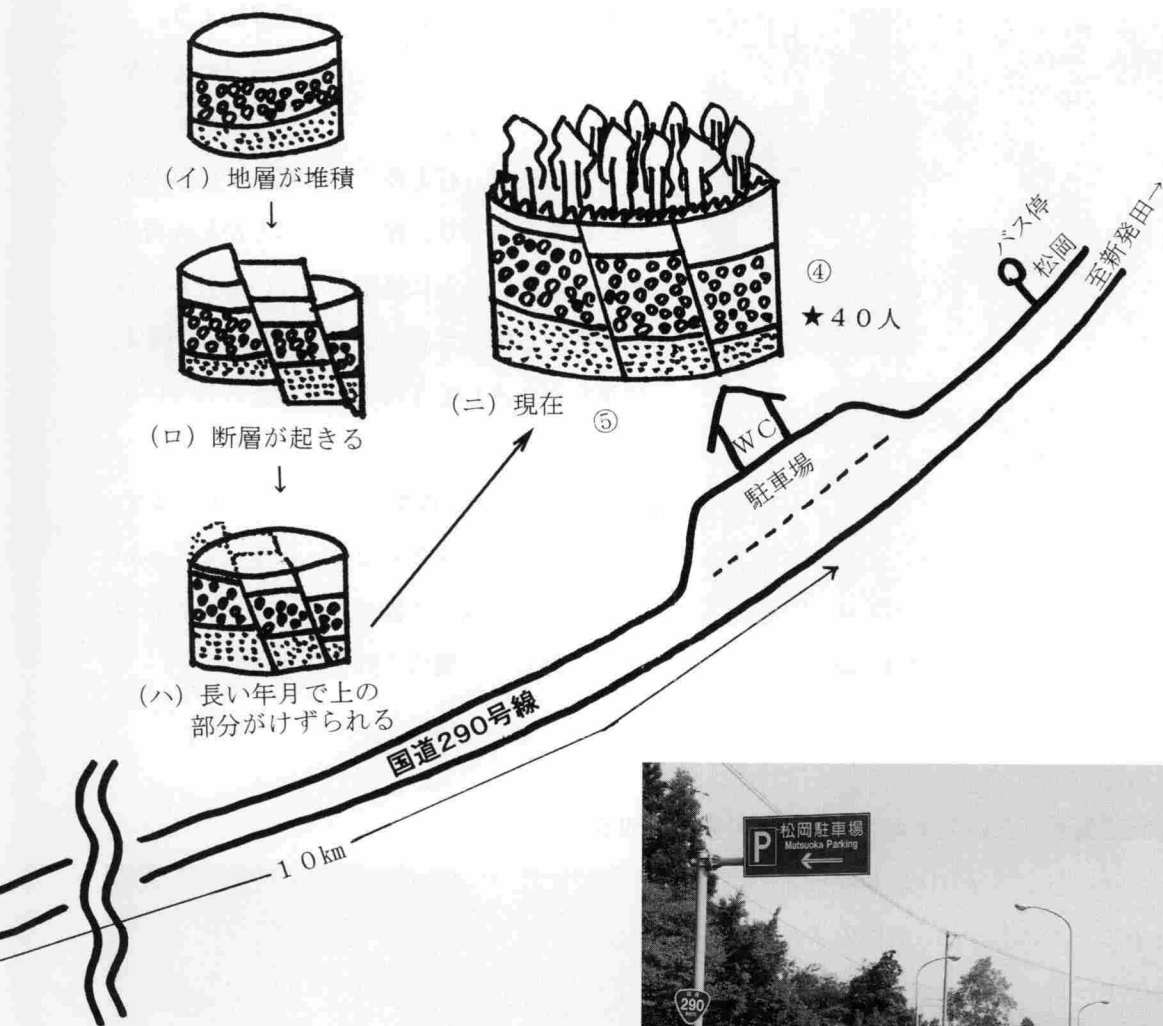
6. 笹神丘陵コース案内図

★見学可能人数



大日露頭入り口

現在の地層ができるまで



松岡駐車場入り口



笹神村郷土資料館入り口

7. 観察のポイント



巨礫と砂層と礫層の露頭

① 下半部と上半部の層の違いを観察しよう。

左図の露頭の特徴は、上部と下部で地層の様子が違うところです。

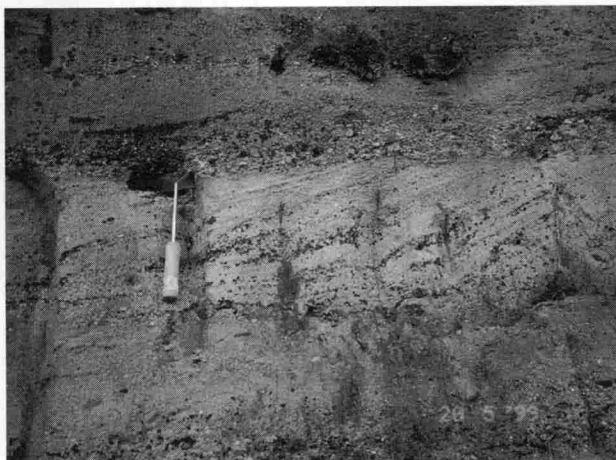
上半部の礫層（石を多く含む層）は全体が赤っぽい色をしており、礫のほとんどが花崗岩の巨礫からなり、さらに巨礫の周りの部分も花崗岩質の砂から構成されています。これらの礫は、五頭連峰から流れてきたものと考えられています。

下半部は、砂層と礫層が交互になっています。砂層は花崗岩質の砂からなり、礫層は中くらいの大きさの円い礫を主体とした、古い時代につくられた岩石から構成されています。

② 斜交葉理（クロスラミナ）で、水の流れを知ろう。

がけの右下部分の砂層を観察してみましよう。すると、右図のように層の中に斜めに堆積しているものを見ることができます。この傾斜した地層は、斜交葉理（クロスラミナ）と呼ばれているもので、堆積したときの水の流れの方向や風の向きを知る手がかりとなるものです。

右図では、右から左に向かって下がっているので、右から左に水の流れがあったと判断できます。



斜交葉理（クロスラミナ）

③魚の化石を探そう。

魚岩さかないわのがけのたもとに「親鸞聖人魚形舊跡しんらんしょうにんにんぎょけいこうせき」と書いてある石塔があります。その前に橋があり石塔と反対側から橋を下ります。泥岩でいがんのはがれ落ちる方向にそって泥岩を割ってみましょう。右図のような魚のうろこの化石が出てきます。うろこは5mmくらいの大きさで、ニシン科のものであると言われています。運が良ければ、5cmほどの魚の化石が発見されるかもしれません。採集地点は、川がカーブするあたりがねらい目です。



魚のうろこの化石

④桃紅色の粘土層を観察しよう。



桃紅色の粘土のある地層

東側（左図）の露頭は、最下部に薄い粘土層をはさんだ粒の大きい砂層があり、その上に約2.5mの礫層、さらにその上に粘土層といった順序で、層がほぼ水平に重なっています。

この粘土層で特徴的なのは、サーモンピンクに似た桃紅色の色合いです。普通の粘土層にはあまり見られないものです。

⑤地層の広がりを確認しよう。



2つの断層がある露頭

西側（左図）は、2つの断層があります。左側は砂層と礫層中、右側は礫層と粘土層中に断層が見られます。これは、砂層の上に礫層、礫層の上に粘土層が堆積したと考えられます。

そう言われてみれば、東側は下から順に砂層、礫層、粘土層でした。偶然でしょうか？それとも・・・。